

第12回奈良 ESD 連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 平成30年2月15日(木)18時～22時
- ◇会場 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館
- ◇参加者 大西・圓山・阿彌・池見(飛鳥小)、新宮(平城小)、島(郡山西小)、池見(大宮小)
山方(都跡小)、蔵前(真美ヶ丘小)、中澤(きんき環境館)、北村(御所市教委)、
檜原・中澤(奈良教育大)、栗谷・春日・口脇(学生) 16名

◇内容

1. 私たちの町をたんけん・はっけん・ほっとけん! (平城小学校 3年 新宮 済)

- ・教材観に不要な情報が多すぎる 単元に関係あるものにしぼる
- ・『ゆかし』についての指導者なりのとらえかたを明記するべき
ゆかし：なつかしい
評価規準や目標に反映すべき
- ・ゆかしからの発展が必要 方向転換が必要
- ・古墳などの調べ学習は学級全体で行うモデリングであり、それをグループ学習や個人調べに発展させていき、それを交流する学習が必要。(目標に即すならば)
- ・校歌の意味を本当に児童は知らない、言い切れるのか。

2. 環境を守るわたしたち (大宮小学校 5年 池見 繁)

- ・教科書は鴨川だが、よく似た事例として佐保川・菩提川・菰川を取り上げた。その妥当性
公害がポイントであろう。佐保川などの汚染も企業活動が原因か?
生活排水も含まれるのではないか。無理ではないと考える。

- ・経済成長によって川が汚染された。その後、人々の努力で改善されたこと。双方に人の営みがかかわっていることから、自らの生活を見つめなおすきっかけとする。
- ・ポイント：ふかめるで「川は誰のものか考える」

当事者意識を育てたい

なぜ、きれいにする必要があるのか。

こういう根拠で、この人のものだと思う、

という根拠を大事にしたい

原因 → きれいにする取り組み → 環境を守る取り組み

誰のもの → 第一に魚のものではないのか。

国土の環境と人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えること



3. 奈良町たんけん (飛鳥小学校 3年 阿彌 茉央)

- ・みつけた疑問を出し合い、グループ化した
- ・1回目の探検 教師主導
- ・2回目の探検 グループ活動



3 回目の探検 疑問の解決につながった

- ・発表資料の作成の工夫 個人の責任を持たせる
- ・パンフレットにかわるもの
- ・誰が残してきたのかに気づかせることが大切
- ・奈良町の誰かの生き方（奈良まちにかかわって）に迫ることで、当事者意識を養うことができるのでは

- ・①住んでいる人の立場、②観光客の立場、③町を守ろうとしている人の立場（外の人でも可）多様性を学ぶことができる。システムズシンキングを養うことができる。
- ・立場によって感じ方、考え方が違いことに気づかせることで、学習が深まる。
- ・パンフレットは渡すときにコミュニケーションができる。

4. めざそう 買い物名人（飛鳥小学校 5年家庭科 圓山裕史）



- ・牛乳を買うとき、賞味期限を見て、後ろから買う経験
- ・家庭科には持続可能な社会という言葉がよく出てくる
- ・消費については、これまでの視点だけでなく「消費者が責任を果たす」ことが求められる。
- ・消費者の権利と地球環境
モノだけでなく、サービスも購入している
消費者の権利と地球環境のジレンマ
- ・食品ロス 売れなかった食品（消費行動が原因にもなっている）
- ・牛乳の買い方で本音に迫る
- ・商品の選び方のポイントを考えさせる

- ・個別の理由を自分で考えさせる
- ・「いい買い物」だれにとって「いい」のか。買う者にとって「いい」だけに終わらせない
- ・当たり前誰かが思っていることにクギを刺す授業になっている。
- ・品質は変わらないことがわかると、購入の仕方が変わるだろう
- ・そこから何が使われているか（添加物）にも注目するようになっていけばいい。

5. 水産業のさかんな地域（飛鳥小学校 5年 池見幸恵）

- ・出汁から水産物の身近さに迫る
- ・これからも水産物を食べ続けるようにしたい
- ・自分たちにできることを考えさせたい（当事者として）
- ・サステイナブル寿司 回転寿司で何を注文するかを考える
旬の魚 旬のものを食べる（山形では）
- ・温暖化の影響にも発展できる。

- ・学習の到達度に差があった。
- ・「水産業の発展」とは何か。
漁業資源の有限性の範囲内の漁家と消費者の幸せ

6. 釣鐘まんじゅうから考える戦争 (M2 栗谷正樹)

- ・なぜ、釣鐘の形をしているのか
- ・金属供出の事実 今は鐘はない
- ・戦没者の慰霊
- ・ネタとしてはすごくいい。配列を修正した方がいい。
- ・単元名は戦争ではなく平和がいいのでは
- ・最後に平和に持っていくには
四天王寺 → 釣鐘 → 供出 → お菓子屋さんの思い(平和への思い)
- ・導入で釣鐘まんじゅうを食べさせるのもいい。
- ・色々なものに意味があるという見方・考え方
- ・明治から戦争までの釣鐘まんじゅうの意味と戦後の意味が違うことに気づかせる
- ・釣鐘屋さんに注力してもいい



7. きょう土の発展につくした人 (きんき環境館 中澤敦子)



- ・JR 奈良駅前の石柱に棚田嘉十郎の名前がある。売名行為を後ろめたく思う
 - ・朱雀門横の像
 - ・棚田嘉十郎が一生をかけたもの
 - ・その後の平城宮跡の保全運動につなげる
 - ・現在の平城宮跡の観光開発と環境保全、住民の声など、ボランティアガイドなど、多様に考えさせる
立場によってさまざまな考えがある 多面的思考・総合的思考
 - ・どの時点での保存なのか。
 - ・自分なりにこれからの平城宮跡のあり方を考える
- ・資料にいいものがない。教員が現代文に訳したものを使ってもいいのでは。年表で学習したことがある。

